



新しい年 新しい日 新しい自分

あけましておめでとうございます。

今日から3学期が始まりました。新しい年が始まったかと思ったのもつかの間で、もう学年末です。学校では、今年度の学校教育のまとめを行い、次年度の計画について話し合っています。また、6年生は間もなく卒業に向けて加速する毎日が始まります。実は、3学期の始まりは、終わりの始まりでもあるのです。こう書いていると、ちょっとせわしない気もしますが、せっかくの新年ですから、少しでもおめでたい雰囲気を味わいながらスタートできたらいいなと思っています。

しかし、中にはこの新しい始まりをめでたく思えない人がいるかもしれません。2学期、学校に来にくかったり学校で楽しめなかったりした人は、始業式を迎えて「また学校が始まるのか…。」と憂鬱な気持ちになっているかもしれませんね。

松下電器(今のパナソニック)の創業者である松下幸之助さんは、著書「道をひらく」の中で、
「日々是新」というタイトルで、次のように述べています。

「年があらたまれば心もあらたまる。心があらたまればおめでたい。正月だけがめでたいのではない。心があらたまったとき、それはいつでもおめでたい。

きのうもきょうも、自然の動きには何ら変わりはない。照る陽、吹く風、みな同じ。それでも心があらたまれば、見るもの聞くものが、みな新しい。」

世界は私たちの存在と関係なく、動き続けています。しかし、それを感じるのもまた私たち自身なのです。同じことを経験しても、それを素敵な体験だと自分のプラスにする人もいれば、つまらないと否定的にとらえる人もいます。でも、経験した事実は変わりありません。大事ななのは、それをどうとらえるかという心です。

そして、次のように続きます。

「きのうはきのう、きょうはきょう。きのうの苦勞をきょうまで持ち越すことはない。『一日の苦勞は一日にて足れり』というように、きょうはまたきょうの運命がひらける。」



嫌なことをずっとため込んで、どんどんしんどくなる人がいます。過去にした失敗をいつまでも引きずる人もいます。経験することは大事ですが、それを学びに転換しないで放って置けば、いつまでたっても状況は変わりません。そのためにも、気持ちを新たにすることがいかに大切であるのかをこのお話は教えてくれます。この新たな気持ちこそが、新しい自分を作り成長させるのですね。

そして、最後にこう結んでいます。

「素直で謙虚で、しかも創意に富む人は、毎日が明るく、
毎日が元気。さあ、みんな元気で、新しい日々を迎えよう。」

そんな毎日が過ごせますように、そして今日が、子どもたちにとって良
き始まりの一日になりますように。

皆さま、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

※本稿における引用掲載にあたっては、(株)PHP 研究所の許可をいただいています。



G I G A (ギガ) 端末^{ゆ く え}の行方

先日、ある教育懇談会で、学校の現状や課題についてお話しする機会がありました。テーマを一つに絞ってということでしたので、現在学校で一人一台端末(いわゆる GIGA 端末)がどのように使われているのかを、大阪市の学校教育 ICT ビジョンに沿って、本校での活用例を発表しました。そして、このことは、自分自身が ICT に関する教育を考える良い機会になりました。

国の GIGA スクール構想により導入されたこの端末は、紙や鉛筆と同じように今や学校になく
てはならないものになっています。学習面では、調べ学習やデジタルドリルなどの学習ツールや
考えを広げたり深めたりする思考ツール、さらに Teams を使った通信ツールとして毎日のように
使われています。先日、6年生が、体育の時間に運動場で自分の端末でハードル走を撮影して、
その場でスロー再生しながら運動のポイントを確認していました。三十数年前に私が同じ授業を
した時は、担任が大きなビデオカメラ^{かつ}を担いで撮り、授業が終わってから教室のテレビで見るし
か方法がありませんでした。当時を思い返すとあらためて隔世^{かくせい}の感があります。また、この端末は、
学習で使われるだけでなく、心の天気(今の自分の気持ちを☀️☁️🌧️⚡で表す)や相談機能
やいじめアンケートなど、子どもが安心して生活することができるようサポートする役割も担っ
ています。正に、何でもできる万能ツールです。

しかし、価値のある活用をするには、使う側はもちろん使わせる側の意識も大事です。例えば、
心の天気にしても、先生が子どもの様子を知るためだけに入力させているようでは、もったいな
いです。子どもが、自分の気持ちを客観視するためのものだ^と理解して取り組ませることで、自分



の心と対話することの大切さに気付くという教育的な価値が生まれるのです。このように、ICT をどう使うかだけでなく、それを使って何を
目指すのかを、我々指導者がしっかり考えて、子どもたちに伝えてい
かなければなりません。ICT 教育は、リテラシー以外にも、生成 AI へ
の対応など今後の課題はつきません。この端末が、高価なおもちゃに
ならないよう、しっかり考えていきたいと思います。